

平成31年2月13日(水)

大学進学と進路その3

私立大学受験と進学において、一番ハードルが高いところが、授業料であるのは間違いないところです。現に、理系学科の授業料を比べてみると、私立大学においては、1年間の授業料が160万程度であり、国立大学が60万弱であるのと比べてみても、大きな差があるのは明らかどころです。

特に、これが4年間続くことと、その後の大学院進学まで考えると、国立大学理系学科6年間で、360万であることに対して、私立大学になると960万となり、その差は、600万であるます。仮に仕送りが10万円必要である場合、6年間で720万円となり、私立大学入学から大学院卒業まで合わせると1680万必然的にかかることになるわけです。国立大学であると、仕送り分ぐらいがペイできるので、1080万で済むこととなります。

一人でこの数字であるので、二人になるとその倍、三人になると三倍が必要です。これは、大きな負担であることは否めません。

ところが、政府は、二〇二〇年度以降、私立大学入学生徒への給付金制度を考えている旨、報道等がありました。奨学金はあるものの、やがて返すというリスクを背負いながら大学へ進まなければならなかった今までの学生に比して、給付金制度が確立すれば、その負担が大きく減じていくのは確かです。

それぞれの大学内における独自の返還義務のない奨学金制度や、様々な篤志家の方々から頂ける奨学金給付制度等もあるところでは、海外への留学制度においても、独自の試験による留学生支援制度もあるところであり、学びへの意欲を支えていただける様々な手立ては、間違いなく社会の中に数々あるところではありますが、基本的に格差を是正する仕組みが構築されると、日本の教育はもう一度よみがえると考えると思います。

かつては、公務員や教員になると返さなくてもいいという奨学金制度によって、様々な人材が育ち、その人々が次世代を支えていたことは確かです。個人的な資産の増額もさることながら、社会全体のシステムの維持のために人材が育たないと、個人的な資産そのものの価値も失われることをもう一度考慮しつつ、社会システムの増強を図らなければならないと思うのです。

苦しい時にいただいた支援は一生忘れないものです。そのような支援を自分も行いたいと必ず考えます。東日本大震災や様々な天災を経験する私達だからこそ、忘れないで大切な一粒の支援を作り上げていただきたいと思います。心から願います。